

## TEACCH の考え方を取り入れた自閉症児・者に対する歯科治療適応訓練

岡山大学病院 特殊歯科総合治療部 森 貴幸 江草 正彦  
川崎医療福祉大学 医療福祉学科 佐々木正美 武田 則昭

### 【要旨】

#### 緒言

自閉症児は社会的相互交渉，コミュニケーション機能の質的障害，活動や興味の著しい限局性を有するため，社会生活において不利益を被っている．それは歯科治療においても例外ではなく，適切な支援なしでは十分な歯科治療を受けることが困難な事が多い．

われわれは視覚支援下に自閉症児の歯科治療適応トレーニングを行い，成果を得たので報告を行った．患者プロフィール

O.R. 男子 初診 平成16年5月24日 初診時年齢 13歳9か月

中度知的障害を伴う自閉症

発達年齢 基本的習慣3歳，言語理解4歳，表現能力2歳

トレーニング・治療過程

初診時 診療台上で仰臥位になることは可能であったが，口腔内診査は抵抗により困難であった．口腔内の状態を把握，治療計画を立てる目的で，静

脈内鎮静法下で一度，口腔内診査と全顎のレントゲン撮影を行った．その結果，両側下顎小白歯遠心隣接面に齲蝕を発見，エナメル質限局であったため1～2週間に1度，治療適応トレーニングを兼ねたフッ素塗布，6か月に1度，齲蝕部のレントゲン撮影を行う計画を立て，実行した．

トレーニングは絵カードを用いた視覚支援下で系統的脱感作を中心に行った．内容はブラッシング，治療器具の口腔内挿入，レントゲン撮影練習であった．視覚支援は治療の内容だけでなく，治療の手順や経過が伝わるよう工夫をし，カウント唱和を加えて患者が現状の把握と治療終了までの見通しをもって治療に臨めるようにした．

まとめ

自閉症児は言語等によるコミュニケーションは困難でも，視覚認知能力は優れている人が多い．したがって治療内容を表す絵カードを時系列に配置して，治療内容と経過を視覚化する方法は有効であった．今後は非常に敏感である音への対策が必要である．